

**ZOU-NO-HANA
FUTURESCAPE
2021
DOCUMENT
BOOK**





私たち象の鼻テラスは、2009年の開館以来、常にアーティストとともに歩んできました。アーティストたちの発想、表現は、いつも私たちに刺激し、横浜というまちの新たな可能性への気づきをもたらしてくれます。いま、その創造力は象の鼻テラスに集う市民や観光客、あるいは企業や各種団体にも波及しつつあります。私たちはこうしたアーティスト、市民の創造力を深く信頼し、コロナ禍の日常を少しでも豊かにするためのアイデアを募集しました。期待したとおり、招待作家に加え、公募プログラムに応募いただいた17組もの参加者をえて、本年の「FUTURESCAPE PROJECT」を開催することができました。

本事業がアートの創造力の発露となり、より良い日常、より良い公共空間が実現されていくことを期待しています。開催にあたり、ご参加いただいたアーティスト、クリエイターの皆様、特別協賛をいただいた株式会社FREEing様をはじめご協力をいただいた企業、団体の皆様、そして本事業の趣旨に賛同し多大なお力をいただいた市民、ボランティア、ほか全ての皆様に心から御礼申し上げます。

象の鼻テラスアートディレクター

岡田勉

Zou-no-hana Terrace has been working with artists since opening in 2009. The unique ideas and expression of the artists we encounter never fail to inspire us to work toward new possibilities for the city of Yokohama. Now, that creativity is spreading not only to visitors from far and near who gather here, but to companies and organizations as well. We have great faith in the creativity of our artists and in the citizens of Yokohama as we search for new ideas as to how we may enrich our lives day-to-day in the face of Covid19. The work of seventeen entities from the open-call program complemented that of the invited artists proved a major factor to the success of our most recent Futurescape Project, even exceeding our expectations.

I hope that this project will have revealed the creative power of art and result in bringing about creative elements in the lives of the community and the development of richer common spaces throughout the city. Finally, we would like to express our sincerest gratitude to all artists and creators who participated in the event, also to all companies and organizations that generously cooperated with the event, in particular FREEing CO., LTD. who granted us special sponsorship; and last but not least to the citizens and volunteers of Yokohama whose support we could not have done without.

Tsutomu Okada
Art Director, Zou-no-hana Terrace

2021年コンセプト

「FUTURESCAPE PROJECT」は、アートの創造性を用いて公共空間の新しい使い方を提案する社会実験プロジェクト。SDGs達成に貢献することも視野にいれ、アーティスト・市民・企業など多様な主体と共に推進している。3回目の開催となる2021年度は、「ニュー（ノーマル+クリエイティブ）ライフ」をテーマにおいた。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミックにより、私たちの生活様式や価値観は激変し、世界中の人々が自分の暮らしや社会のあり方を見つめ直す機会となった。感染症の拡大防止がいまなお最優先の社会課題だが、コロナ禍の日常を少しでも豊かなものにするこもまた重要な課題となりつつある。こうした状況を踏まえ、コロナ禍の日常を少しでも創造的に、楽しく生きるためのアイデアを集積し実践した。アイデアの集積にあたっては「ニュー（ノーマル+クリエイティブ）ライフ12カ条」を設定し、それに即して、招待アーティストによるアートプログラム、市民や企業から募集する公募プログラム、そしてコロナ禍の公共空間を考えるサミット等を展開した。

ニュー（ノーマル+クリエイティブ）ライフ 12カ条

1. アートを飾る
2. 花、植物を育てる
3. 音楽を楽しむ、本を読む
4. 自然の中で過ごす
5. 大切に使い続ける
6. 誰かを思いやる、助ける
7. 省エネルギーで過ごす
8. 食べるを考える
9. 身体を動かす
10. 自分たちでつくってみる
11. 他者と対話する
12. 自分のニュー（ノーマル+クリエイティブ）ライフを考えてみよう

The Twelve Articles of a New — Normal/Creative — Life

1. Live with art
2. Grow things, know things
3. Enjoy music and reading books
4. Live naturally, live positively
5. Live smart and sensibly, clean and comfortably
6. Reach out, help others
7. Use energy meaningfully
8. Know how you eat affects your world
9. Be active, look around
10. Be part of the creative process
11. Engage and interact
12. Invent your own "new normal" creative lifestyle!

Futurescape Project 2021 Concept

The Futurescape Project is an event-as-a-social-experiment with the aim of contributing to the seventeen Sustainable Development Goals by proposing creative new ways to use common space through art, which we promote with the help of various "actors": that is; artists, local citizens, and even companies. The event was held for the third time in 2021, the theme being a "New (Normal+Creative) Life." The Covid19 pandemic has drastically altered lifestyles as well as our sense of values, giving people around the world opportunities to rethink lifestyles and the individual's place in society. Preventing the spread of infectious diseases remains a top-priority social issue, but enriching our daily lives while co-existing with the corona virus is also becoming an important point in discussion. Based on this present situation, we have accumulated and put into practice ideas for living life day-to-day in a more creative and positive way. In doing so, we established "Twelve New (Normal+Creative) Life Articles" to form the backbone for an art program featuring invited artists as well as other interested parties through an open call to participate, ending with a summit meeting discussing the role of public space in the time of Covid19.



FUTURESCAPE PROJECTは、SDGs達成に貢献することも視野にいれ、「環境」「災害」「食」「健康」「教育」「花と緑」の6分野にフォーカスし、公共空間の創造的活用に取り組んでいます。

開催概要 / OUTLINE

ゾウノハナ・フューチャースケープ・プロジェクト 2021

テーマ: ニュー（ノーマル+クリエイティブ）ライフ
 会期: 2021年10月2日(土) - 10月24日(日)
 公募プログラム
 コア期間: 2021年10月2日(土)・3日(日)
 時間: 10:00-18:00(10/3(日)および金・土は20:00まで)
 会場: 象の鼻テラス、象の鼻パーク、みなとみらい線日本大通り駅三塔広場、オンライン
 料金: 無料
 主催: 象の鼻テラス
 特別協賛: 株式会社FREEing
 特別協力: 横浜高速鉄道株式会社
 協力: 株式会社中川ケミカル、バーガー&カフェ サンテオレ、ファミリーマート日本大通り駅店、横浜市立図書館、SUITAKU

- ・本事業は横浜市のさまざまな文化芸術事業を支援する株式会社FREEingの協賛を受けました。
- ・本事業は横浜市の創造界隈拠点が市内各所で開催する「食」と「アート」をテーマとしたプログラム「Creative walkway～食とアートと街歩き～」の一端で行いました。

ZOU-NO-HANA FUTURESCAPE PROJECT 2021

Theme: NEW — NORMAL/CREATIVE — LIFE
 Duration: October 2 {Sat} – 24 {Sun}, 2021
 Open-call
 Program Core Term: October 2{Sat} - 3{Sun}, 2021
 Time: 10:00–18:00 / 10/3 Sun, Friday and Saturday 10:00–20:00
 Venue: Zou-no-hana Terrace, Zou-no-hana Park, Santo Square/Nihon-odori Station, Online
 Entrance: Free
 Organizer: Zou-no-hana Terrace
 Special Sponsorship: FREEing CO., LTD.
 Special Cooperation: YOKOHAMA MINATOMIRAI RAILWAY COMPANY.
 Cooperation: Nakagawa Chemical Inc., BURGER CAFE SANTEOLE, Family Mart Nihon-Odori Station, YOKOHAMA CITY LIBRARY, SUITAKU

- ・ This project was sponsored by FREEing Co., Ltd., which supports various cultural and artistic projects in Yokohama City.
- ・ This project was part of the "Creative walkway ~ Food, Art, and City walks ~" program, which was held under the theme of "Food" and "Art" in various places in Yokohama City by the center for creative community in Yokohama City.



ZOU-NO-HANA FUTUREScape PROJECT 2021
プログラム・参加アーティスト／関係者

アートプログラム

《ハローサンリクー東日本大震災から10年「ひかりの実」特別プログラムー》高橋匡太

《2点のinformation centerが与えられたとして、実在しない地点cを求めよ》金子未弥

《拡張ニュー屋台》中山晴奈

[トーク登壇]友廣裕一(合同会社シーベジタブル共同代表、一般社団法人つむぎや代表)、岡根谷実里(世界の台所探検家)、Light up Myanmar(ミャンマーにルーツを持つ20代を中心にした情報発信プロジェクト)、北角裕樹(ジャーナリスト、映像作家)、伊藤洋志(ナリワイメーカー、スクラップ装飾社)、山口純(建築理論研究者、スクラップ装飾社)、高橋仙人(仙人スパイス代表)
[展示制作]スクラップ装飾社 [協力]バーガー&カフェ サンテオレ

《象の鼻スイッチ2021》スイッチ総研

[作]スイッチ総研(光瀬指絵、大石将弘) [脚本/演出]光瀬指絵 [出演]大石将弘、有吉宣人、石倉来輝(ままごと)、小林義典(クロムモリブデン)、田中祐希(ゆうめい)、福永マリカ、大竹このみ(鷲沢貧乏)、川田 希、洪 雄大(中野成樹+フランケンス)、田島芽香(FUKAIPRODUCE羽衣)、多田香織(KAKUTA)、長南光生、花戸祐介、和田瑠子(ゆぶねロマンス)

《スイッチワークショップ+ミニ発表会『象の鼻こどもスイッチ公開研究会』〜スイッチを押すとはじまる小さな演劇を作ってみよう!!〜》
スイッチ総研

[講師]光瀬指絵(スイッチ総研所長)、大石将弘(スイッチ総研副所長)、有吉宣人、石倉来輝(ままごと)、小林義典(クロムモリブデン)、田中祐希(ゆうめい)、福永マリカ

《「吹きさらし!!手を変え品を変え劇場」引き続き!!トライアル&エラー公演》スイッチ総研

『職業(教訓劇)』

[作]岸田國士 [構成/演出]光瀬指絵 [出演]石倉来輝(ままごと)、川田希、小林義典(クロムモリブデン)、田中祐希(ゆうめい)、夏目慎也(東京デスロック)、福永マリカ、もりももこ(劇団かもめんたる)、光瀬指絵

『落物発見伝 暗鬼墓口』〜おとしものはっけんでん あんきのがまぐち〜
[作/演出原案]池田亮(ゆうめい) [現場演出]光瀬指絵 [出演]田中祐希(ゆうめい)、もりももこ(劇団かもめんたる)、光瀬指絵

[制作協力]有吉宣人、新井ひかる、久保田翔子

《スイッチ総研×きくたびプロジェクト『きくたびプロジェクト横浜ゾウノハナ編』》

[企画構成]大石将弘 [作・声の出演]大石将弘、北村美岬、立蔵葉子、有吉宣人 ※ [声の出演]山内健司(青年団) ※ [制作協力]有吉宣人 [協力]視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ
※クルーズ編のみ
[運営責任]SUITAKU

《光ある航海》藤村憲之

[運営責任]SUITAKU

《NARIWAI in 象の鼻》YOKARO

[公開取材ゲスト]高橋匡太 [助成]アーツコミッション・ヨコハマ

公募プログラム

[参加者]井上幸子、河西琢磨(工作屋KOUSAKUYA)、コトノハ、さくらアリス、デンデラ楽団、東京大学寛康明研究室、鶴田傑、中屋敷南、南雲麻衣、馬場敬一+DAN DAN DOME、ポリシーナッジデザイン+まちなかナッジプロジェクト、マーク朋子、山田素子、Luna crescente ルーナ クレシェンテ、Sensescape Design Lab.、YOKARO、&Post

《みえないけどいる -touch the ghost skin-》

[出演]中村理、齋木穂乃香、重松悠希、山口なごさ、中屋敷南 ほか
[映像]中瀬俊介 [楽曲協力]角田寛生

《アンサンブル "Luna crescente" Parc concert 音楽日和》

[出演]岡村正子(ソプラノ)、大喜多陽子(バロックギター、リコーダー)、米山水浦(ヴィオラ・ダ・ガンバ)、Sayumi(鍵盤ハーモニカ、パーカッション)

ミュージック&マルシェ

アリオト presents ミュージック

[出演]渡辺まこみ、秋元菜里、石井竜太+内田万里、梅香家聡、C.C.、藤本茂寿+池上たつくん+大西彩瑛、清水夏生+松下福寿+吉田篤貴

[空間演出]アリオト

[協力]バーガー&カフェ サンテオレ、ファミリーマート日本大通り駅店

ぞうさんマルシェ

[出店]Ceramic studio n、maharu &yuyala、Miinkoti kori、PULP art studio、zigzag、MARIERE1、chidori、FUTGS、GREEN WAVE、nocomoco、革工房yokoji、つまみ細工の鳥待月、スローレーベル、Komorebi Candle、瀬戸内かわい部、にやにやまーけっと
[新作屋台デザイン]川本尚毅(株)N and R Foldings Japan代表

象の鼻カフェ、バーガー&カフェ サンテオレ、日本理化学工業株式会社

ゾウノハナ・コレクション

[作品参加]アリス・クニスエ、リリアン・ブルジェア、椿昇、一般社団法人 横浜まちづくり倶楽部
[協力]横浜市立図書館

FUTUREScape SUMMIT 2021

[登壇]町田誠、島田智里、信時正人、FUTUREScape PROJECT 2021 招待アーティスト、神部浩、岡田勉

会場図 / MAP



■ SITE-A 日本大通り駅三塔広場

2点のinformation centerが与えられたとして、実在しない地点cを求めよ
拡張ニュー屋台
公募プログラム
アリオト presents ミュージック
オープンカフェ・サンテオレ

■ SITE-B 象の鼻パーク

ハローサンリク
一東日本大震災から10年「ひかりの実」特別プログラムー
象の鼻スイッチ2021
スイッチワークショップ+ミニ発表会『象の鼻こどもスイッチ公開研究会』
「吹きさらし!!手を変え品を変え劇場」引き続き!!トライアル&エラー公演
スイッチ総研×きくたびプロジェクト『きくたびプロジェクト横浜ゾウノハナ編』
公募プログラム
ぞうさんマルシェ
象の鼻カフェ オープンテラス
ゾウノハナ・コレクション

■ SITE-C 象の鼻テラス

2点のinformation centerが与えられたとして、実在しない地点cを求めよ
拡張ニュー屋台
スイッチワークショップ+ミニ発表会『象の鼻こどもスイッチ公開研究会』
「吹きさらし!!手を変え品を変え劇場」引き続き!!トライアル&エラー公演
NARIWAI in 象の鼻
公募プログラム
楽がきマルシェ

■ SITE-D 海上 / 船

スイッチ総研×きくたびプロジェクト『きくたびプロジェクト横浜ゾウノハナ編』
光ある航海

アートプログラム

アートプログラムでは、高橋匡太、金子未弥、スイッチ総研、中山晴奈、藤村憲之、YOKAROの6組が参加。SDGsの提言に気づきをもたらすことを目指し「環境」「災害」「食」「教育」「健康」「花と緑」という6つのフォーカステーマを踏まえて作品を構成した。すべてのプログラムにおいて市民の主体的な参加性を取り入れている。

高橋匡太による作品では、東日本大震災がきっかけで誕生した作品《ひかりの実》の特別プログラムを展開。震災から10年となる今年、災害の記憶を風化させず、笑顔でいられることの尊さを忘れないために、《ハローサンリク》と題し、全国各地から東北に「笑顔」を届ける参加交流型アートプロジェクトを行った。金子未弥は、見知らぬ人同士が電話越しの会話を通じて記憶する都市の風景を交換する作品で日本大通り駅と象の鼻テラスの2会場をつなぎ、交流を生み出した。スイッチ総研は、象の鼻パークを劇場に見立てた公演、来場者自身が持つスマートフォンなどの機器で誰でもいつでも聴ける演劇、子どもたちと即興で演じるスイッチワークショップなど多彩な演目を、公共空間を大いに活用して繰り広げた。中山晴奈は食文化にフォーカスした展示とトークイベントで様々な社会課題を浮き彫りにし、示唆に富む内容となった。藤村憲之によるクルーズを使った光の作品、YOKAROが提案する子どもの学びの場づくりなど、多様な表現活動により本事業の主旨を訴求できた。

ART PROGRAM

The art program consisted of six projects by Mr. Kyōta Takahashi, Ms. Miya Kaneko, Switch Research Institute (group), Ms. Haruna Nakayama, Mr. Noriyuki Fujimura, and Yokaro (Ms.). Works were to be based on any of the six focus themes, namely The Environment, Disasters (coping with natural disasters), Food issues (food waste etc), Education, Healthy living, and Flowers & Greenery, as themes based loosely on the recommendations of the seventeen Sustainable Development Goals. Each program incorporated and encouraged the voluntary participation by members of the community.

Mr. Takahashi's work, entitled "Hikari no Mi (fruits of light)," began in the wake of the Great East Japan Earthquake. Being ten years after the disastrous earthquake and tsunami, an exchange "Hello Sanriku" interconnecting stricken areas with participants around Japan reminded us how wonderful it is to have something to smile about, as it sent "smiles" from all over the country and let those affected by the quake know that the memory of that day is still with us.

Ms. Kaneko's work involved strangers interacting and sharing with each other over the phone about what they see in the city, while connecting the two venues in Nihon-Odori Station and the Zou-no-hana Terrace.

Switch Research Institute made full use of available space in a number of ways, such as a performance using the entire Park as a theater, a play that anyone with a smartphone or other device could listen to at their convenience, or an improvisational "Switch Workshop" where kids could show off their talent.

Ms. Nakayama brought to light social issues revolving around food culture through thought-provoking exhibits and talks.

Mr. Fujimura's illumination cruise and Yokaro's proposals for creating places conducive to children's learning were among the wide variety of media in which the project's purpose was conveyed to visitors and participants alike.





象の鼻パーク

ハローサンリク

一東日本大震災から10年「ひかりの実」特別プログラムー

Hello Sanriku

-10 years after the Great East Japan Earthquake

"Hikari no Mi" Special Program--

高橋匡太

Kyota Takahashi

《ひかりの実》は、2011年の東日本大震災をきっかけに、アーティスト高橋匡太が考案した参加型アートプロジェクト。果物を育てるときに使われる「果実袋」に参加者が笑顔を描き、LED電球を詰めることで色とりどりの笑顔が夜景を彩る光の作品だ。2011年10月に開催された、「スマートイルミネーション横浜 ※」で初発表され、同年12月には、この展示を見た東北関係者からの連絡がきっかけで、陸前高田市と横浜で《ひかりの実》の交換プロジェクトが展開された。クリスマスに横浜市の小中学生たちが作った500個の《ひかりの実》を陸前高田市の仮設住宅に届け、年末年始に陸前高田市の子供たちが作った《ひかりの実》も加え、約3000個の《ひかりの実》を横浜・山下公園に展示、NHKの「ゆく年、くる年」でも放映されるなど、大きな話題をよんだ。その後《ひかりの実》は横浜から全国に広がり、累計10万人以上が参加、小学校の美術教科書（開隆堂出版）にも掲載されている。

東日本大震災と《ひかりの実》の誕生から10年を迎えた2021年。震災の記憶を風化させず、笑顔でいられることの尊さを忘れないために、「ハローサンリク」と題し、全国各地から東北に「笑顔」を届ける参加交流型アートプロジェクトを行った。象の鼻テラスのほか、横浜市緑区、松山市道後温泉地区、松戸市で制作した《ひかりの実》を、陸前高田市、気仙沼市、南三陸町に届け展示するほか現地でもワークショップも開催した。

※スマートイルミネーション横浜…東日本大震災が起きた2011年にスタートした国際アートイベント。震災を機に注目が増した太陽光発電や蓄電、LEDなどの省エネルギー技術とアートを組み合わせて、新しい時代の横浜の夜景を提案した。

関連イベント

事前ワークショップ

笑顔を描いた「果実袋」を象の鼻テラス内の特設ポストに投函。

実施期間：7月1日(木)・9月26日(日)

会場：象の鼻テラス



象の鼻パーク



気仙沼市

当日ワークショップ

笑顔を描いた「果実袋」にLED電球を詰めて完成した《ひかりの実》を、その場で樹木に飾り足していく。

日時：10月2日(土)、3日(日) 11:00-17:00

会場：象の鼻パーク

象の鼻テラス、象の鼻パーク / Zou-no-hana Terrace, Zou-no-hana Park

《ひかりの実》の交換、交流の組み合わせ

横浜市・象の鼻パーク

展示期間：10月2日-24日

展示個数：約1500個

ワークショップ実施日：10月2日・3日

↓↓↓

陸前高田市

展示期間：12月20日-1月16日

展示個数：約600個

ワークショップ実施日：12月18・19日

↓↓↓

松山市道後温泉地区

展示期間：12月17日-1月16日

展示個数：約3000個

ワークショップ実施日：12月17日

↓↓↓

南三陸町(志津川地区)

展示期間：12月4日-12月25日

展示個数：約600個

ワークショップ実施日：12月4日

横浜市・緑区

展示期間：10月30日-11月21日

展示個数：約400個

ワークショップ実施日：10月30日

↓↓↓

気仙沼市

展示期間：12月19日-1月16日

展示個数：約500個

ワークショップ実施日：12月19日

↓↓↓

松戸市

展示期間：10月23日-11月14日

展示個数：約60個

ワークショップ実施日：10月23日

↓↓↓

南三陸町(歌津地区)

展示期間：12月5日-12月25日

展示個数：約160個

ワークショップ実施日：12月5日



南三陸町



2点のinformation centerが与えられたとして、実在しない地点cを求めよ
Given the two information centers, find the nonexistent point c.

金子未弥

Miya Kaneko

観光地などにある"information center"を、誰かと自分の記憶を交換する場所に変換した参加型作品。電話越しの会話などを通じて、自分の記憶する都市の風景を絵に残し、誰かの記憶の風景を持ち帰ることができるというプログラムを設定した。作品は2会場に配置。象の鼻テラスには「インフォメーションカウンター」が設置され、見知らぬ人同士が会話するための電話機と、記憶の風景を描くポストカードや画材を用意。日本大通り駅三塔広場にはテラス内の電話機につながる電話番号を記したオブジェを置いた。絵を描くこととその交流のあり方は参加者に委ねられたが、自身の思い出が他者によって描かれる、その共有の時間が記憶をさらに特別なものにする様子がうかがえた。



参加方法

[象の鼻テラス]

- ① 専用電話機が鳴ったら電話に出て、見知らぬ誰かの「記憶に残っている場所の話」を聞いてください。
- ② その風景を想像して絵葉書にしてください。
- ③ 描いた絵葉書は持ち帰ることができます。誰かに送ってみてもいいかもしれません。

[日本大通り駅]

日本大通り駅三塔広場に掲示中の電話番号へ電話をかけ、電話口の見知らぬ誰かに「記憶に残っている場所の話」をお話ください。

象の鼻テラスの作品に置かれた専用電話機にかかり、お話をもとに象の鼻テラスにいる参加者が絵葉書にします。

象の鼻テラス、日本大通り駅三塔広場 /

Zou-no-hana Terrace, Santo Square/Nihon-odori Station



拡張ニュー屋台

Yokohama Expanzion Eating

中山晴奈

Haruna Nakayama

「屋台」は都市の台所の拡張であり、家事を共有する文化だ。本作品は、「食」をコミュニケーションツールと捉え、アートや地域の現場で企画を行う中山晴奈が、社会課題や暮らしの楽しみを「屋台」に仕立てて共有する実験と提案である。屋台制作にはスクラップ装飾社が参加。海洋資源、農業、リサイクル、民族多様性などのテーマごとにかたちを変え表現した。週末にはテーマに関連するゲストを招きトークイベントを実施した。絶滅が危惧されはじめたスジアオノリの陸上養殖をする会社代表、森林農業という新しい農業スタイルの実践者、ミャンマーの民主化活動を伝えるジャーナリストや世界各地の台所を訪問し料理を通じて社会文化背景を伝える探検家らとの対話から、現代の社会課題を浮き彫りにした。制作された屋台は期間中に再活用先を募集し、確定している。元々解体された古民家などの廃材からつくられたものが、また都市の中に循環していく。プログラム全体を通して来場者に様々な気づきを投げかけた。



関連イベント

トークイベント

- 10月2日(土)「アオノリを食べて知る日本の海洋資源の今」(ゲスト:友廣裕一)
- 10月3日(日)「世界の屋台から考える 家事の拡張と共有」(ゲスト:岡根谷実里)
- 10月9日(土) 第一部「Z世代が考える 新しいミャンマー支援」(ゲスト:Light up Myanmar)
- 10月9日(土) 第二部「ミャンマーにおけるアーティストの今」(ゲスト:北角裕樹)
- 10月10日(日)「小さな仕事で幸福度を上げる 屋台の可能性」(ゲスト:スクラップ装飾社(伊藤洋志、山口純))
- 10月23日(土)「純胡椒から見る森林と農業と生物多様性の話」(ゲスト:高橋仙人)

象の鼻テラス、日本大通り駅三塔広場 /

Zou-no-hana Terrace, Santo Square/Nihon-odori Station



象の鼻スイッチ2021
ZOU-NO-HANA SWITCH 2021

スイッチ総研
Switch Research Institute

来場者が「スイッチ」を押すと始まる3秒～30秒の演劇を様々な公共空間で上演するスイッチ総研は、コロナ禍が日常化しやりようが変ったこの世界に対応し、物に触れない方法で押す「スイッチ」を2020年度に引き続き開発した。登場する出演者たちは、皆マスクをし、接触を避け、人との距離を保ちながら、「スイッチ」に対する来場者へのリアクションを様々な手法で表現した。コロナ禍で今や当たり前になった事象をもとにした決してアンチではない笑いを起こす演出により、今この時代ならではの演劇「象の鼻スイッチ2021」が誕生した。

象の鼻パーク / Zou-no-hana Park



スイッチワークショップ+ミニ発表会『象の鼻こどもスイッチ公開研究会』
～スイッチを押すと始まる小さな演劇を作ってみよう!!～
ZOU-NO-HANA KIDS SWITCH WORKSHOP

スイッチ総研
Switch Research Institute

スイッチを押すと出現する3秒～30秒の小さな演劇「スイッチ」を、小学生と作るワークショップ。スイッチ総研のこども研究員として参加する子どもたちが、象の鼻パークの景色・既存の設置物や身のまわりのものを使い、演劇内容や台詞も考え、稽古を重ね、最終的にはスイッチ総研のメンバーと一緒に来場者の前でミニ発表会として披露するまでを行った。スイッチ総研メンバーが作るセリフ量に負けず、象の鼻パークの立地を巧く活用した内容で、来場者を存分に楽しませた。

象の鼻テラス、象の鼻パーク / Zou-no-hana Terrace, Zou-no-hana Park



「吹きさらし!!手を変え品を変え劇場」引き続き!!トライアル&エラー公演
Trying Every Possible Means Theater trial&error performance

スイッチ総研
Switch Research Institute

コロナ禍により劇場で生で上演することが憚られた2020年を経て、スイッチ総研が構想した観客の感染症へのリスクを減らす対策「換気充分な屋外で、少数の出演者による、5分～15分程度の小作品を数本、少数の観客の前で距離を保ち上演する」のもと行う短編演劇上演企画の第2弾。2021年春に象の鼻パークと象の鼻テラスを使って試みた手法を用い、今回も屋外演劇を展開。マスクを着用した俳優たちが、開場中の象の鼻テラスで稽古をしていると思わせ、観客はその稽古場を作る一員として加わることから演劇が始まる。観客は次第に出演者の誘導で象の鼻パークへと連れ出され、屋外を取り込んだ開放的な舞台空間が出現した。

象の鼻テラス、象の鼻パーク / Zou-no-hana Terrace, Zou-no-hana Park

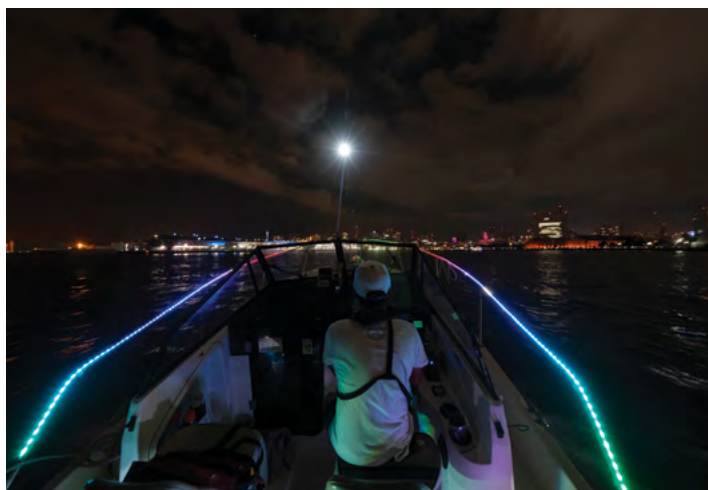


スイッチ総研×きくたびプロジェクト『きくたびプロジェクト 横浜ゾウノハナ編』
KIKUTABI PROJECT Yokohama ZOU-NO-HANA ver.

スイッチ総研
Switch Research Institute

「きくたびプロジェクト」は、様々な場所を舞台に、演劇の力をかりてちょっと変わった「音声」をつくるプロジェクト。象の鼻テラスのプロジェクト「シアターゾウノハナ」[2013-2016]の企画内にて生まれた音声作品『聴くだけ!3分旅行』をもとに、2017年、「視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ」チームの呼びかけにより発足。これまで、横浜美術館のコレクション作品や空間を題材に創作した「横浜美術館コレクション編」、家の中や近所で体験できる「HOME編」を発表してきた。今回は、象の鼻テラス・象の鼻パーク内を散策しながら体験する陸編、象の鼻パークから出航する小さな船(有料)に乗船して体験するクルーズ編の音声作品を制作。体験者は風景を変えず耳から観る演劇を楽しんだ。

象の鼻テラス、象の鼻パーク / Zou-no-hana Terrace, Zou-no-hana Park



光ある航海
Illuminated voyage

藤村憲之
Noriyuki Fujimura

クルーズとイルミネーション作品が一体化した体験型作品。
人間とマシンが一体となった乗物(ボート)が、まるで港に住む大きな生物のように光ることをテーマに制作された夜のクルーズプログラム。作家が乗り込む船にはグループでの乗船が可能で、日が落ちた時間帯に1日4便運行、みなとみらいを約20分間周遊した。海上のある場所を通り抜けると船の照明の色が変化したり、乗船者が小さなデバイスに指を乗せると心拍が検出され、その心拍に合わせて照明が明滅するといった参加型のシステムが作られた。
クルーズから夜景を楽しむだけでなく、船自体が夜景の光のひとつになり、横浜港に浮かび上がった。



運航スケジュール
日時: 10月2日(土)、3日(日)、9日(土)、16日(日)
18:00- / 18:30- / 19:00- / 19:30- (乗船時間約20分)
乗船場: 象の鼻栈橋

船 / Cruise



NARIWAI in 象の鼻
NARIWAI in ZOU-NO-HANA

YOKARO

「NARIWAI」は、子どもがつくる子どものための「おしごと」メディア。子どもが生業(＝ナリワイ)を持つ大人に取材することで「仕事」や「お金」について考える機会の創出を目指し立ち上がった。今回は、これまで子どもたちが様々な「生業」と出会いまとめた取材記事をパネル化し展示にて紹介する。合わせて、期間中のイベントとして「公開取材」を行なった。取材対象には本事業の招待アーティスト高橋匡太を選出。「どんな大人になりたかったですか?」「どうしたらその仕事ができますか?」「働くことについてどう思いますか?」直球の質問に対する真摯な受け答えに、子どもだけでなく大人も考えさせられる時間となった。



関連イベント
公開取材
ゲスト: 高橋匡太
日時: 10月3日(日) 11:30-12:30
会場: 象の鼻テラス

象の鼻テラス / Zou-no-hana Terrace



公募プログラム

公募プログラムでは、テーマに基づいてアートの創造性を社会に応用する公共空間の活用方法を募集し、17組のアイデアが集まった。新しい価値観を提案するもの、コロナ禍で発展したオンラインコミュニケーションを活用したもの、ソーシャルディスタンスからヒントを得たものなど多種多様で、それぞれ、コロナ禍での発表・実演方法にも工夫を凝らして実践した。各分野の審査員9名により最優秀賞1点、優秀賞2点、入選7点を選出した。

【審査員】

遠藤新(工学院大学建築学部まちづくり学科教授)
 小泉雅生(建築家/小泉アトリエ / 東京都立大学大学院教授)
 高橋匡太(アーティスト)
 中山晴奈(アーティスト)
 信時正人(ヨコハマSDGsデザインセンター長)
 町田誠(横浜市立大学客員教授、一般財団法人公園財団 常務理事)
 大石龍巳(横浜高速鉄道株式会社 取締役経営管理部長)
 野田日文(横浜市文化観光局文化芸術創造都市推進部長)
 岡田勉(象の鼻テラス アートディレクター)

【受賞結果】

最優秀賞: 中屋敷南
 優秀賞: 馬場敬一+DAN DAN DOME、東京大学寛康明研究室
 入賞: 井上幸子、コトノハ、デンデラ楽団、鶴田傑、南雲麻衣、YOKARO、&Post

OPEN-CALL PROGRAM

Through an open-call program, we fielded seventeen proposals from the public sphere for artistic and creative ideas as ways to utilize common spaces. The ideas centered on a wide variety of ideas, some proposing new values, others utilizing online technology as possible new ways to communicate under pandemic conditions, while yet others were inspired by the necessity of social distancing; each presented and implemented in pandemic-friendly ways. One grand prize, two awards of excellence, and seven honorable mentions were selected by nine judges from different fields.

【総評】

今年のFUTUREScape PROJECTでは「ニュー(ノーマル+クリエイティブ)ライフ」をテーマに設定しました。ソーシャルディスタンスの意識、飲食店のアクリル板、リモートによるコミュニケーションなど、コロナ禍がもたらした日常生活の変化により、私たちはこれまで以上に公共を意識し、自由について熟考するようになりました。公募プログラムに出展された17の作品は、受賞の有無にかかわらず、そのすべてがこれからの公共空間を、その担い手としての個人の自由と責任を予感させるものでした。すべての人の創造性が生きる公共空間を実現するために、私たちはこれからも本プロジェクトを継続していきたいと考えております。創造性あふれるアイデアを提示してくださった出展者の皆様、真摯に審査いただいた審査委員の皆様、深くお礼申し上げます。

象の鼻テラス アートディレクター 岡田勉



みえないけどいる -touch the ghost skin-



記憶の欠片



ダンボール「射的」であそぼう!



駅中留学!お絵かきしながら手話を学ぼう!



建物と公共空間



YOKARO子ども製作室

みえないけどいる
-touch the ghost skin-
touch the ghost skin

中屋敷南
Minami Nakayashiki

日本大通り駅三塔広場
Santo Square/
Nihon-odori Station

デジタル・フィジカル・ディスタンスを意識したインスタレーションとパフォーマンスをあわせた作品。物理的に触れ合わずとも、触れ合っているような、通じ合っているようなコンタクトをとる「ノン・コンタクトワーク」というアイデアを試みた。鑑賞者は、会場に設置されたモニター画面を通して、目の前のダンサーと、画面上に存在するダンサーの視線と身体の移動・交差を目撃する。

記憶の欠片
Fragment of memory

井上幸子
Sachiko Inoue

日本大通り駅三塔広場
Santo Square/
Nihon-odori Station

仮設の写真スタジオで参加者のポートレイト撮影をするプログラム。ピンホールカメラを用いて長時間露光により撮影。撮影中、井上幸子が被写体となる参加者と「印象的な夢の話」をテーマに対話し、時間の蓄積の中に介在する人の性格、感情、思考などの内面の一端を写真で表現する。撮影された写真は、その場で印刷され、仮設スタジオの壁面に展示した。

ダンボール「射的」であそぼう!
a shooting gallery

山田素子
Motoko Yamada

日本大通り駅三塔広場
Santo Square/
Nihon-odori Station

手元の微調整やバランスなど身体性をともなう昔ながらの遊びに着目し、体験できる場をもうけた。今回発表されたのは「射的」。参加者は輪ゴムてっぽうを使って9個の的を狙い倒していく。ゲームに使う的や輪ゴムてっぽうなど道具はすべてダンボールで巧妙に作られたお手製。通りがかりに体験していく子どもたちは夢中になって楽しんだ。

駅中留学!お絵かきしながら手話を学ぼう!
Let's learn sign language through drawing!

南雲麻衣
Mai Nagumo

日本大通り駅三塔広場
Santo Square/
Nihon-odori Station

自分の思いや頭の中にあるイメージを伝えるために、音声や手話、文字、絵などさまざまなメディアを使って人はコミュニケーションをとることができる。手話話者である南雲麻衣が、透明の亚克力板を介し手と絵を重ねながら、手話や視覚言語で翻訳する個別指導のワークショップを行った。参加者はイメージの表現を、声を使わずに想像豊かに手で伝える体験を楽しみながら学んだ。

建物と公共空間
Buildings Merging into
Public Space

綿田傑
Suguru Tokita

象の鼻テラス
Zou-no-hana Terrace

「建物と公共空間」というテーマで撮影された建物の写真展示が主體的にする活動や学びのための手助けや場づくりを行っている。今回は、子ども向けのものづくりワークショップを、子どもが講師になり実施する製作室を展開。ミニランタン、ヘアゴムやストラップなどオリジナルのものづくりの手ほどきを、子ども目線でお教え合う、交流の場が生まれた。

YOKARO子ども製作室
YOKARO Kids Craft

YOKARO

象の鼻テラス大階段
Zou-no-hana Terrace/
Large Stairs

YOKAROは、大人が子どものためにする活動ではなく、子どもが主體的にする活動や学びのための手助けや場づくりを行っている。今回は、子ども向けのものづくりワークショップを、子どもが講師になり実施する製作室を展開。ミニランタン、ヘアゴムやストラップなどオリジナルのものづくりの手ほどきを、子ども目線でお教え合う、交流の場が生まれた。



(どうせだったら)海へ向かってホップ、ステップ、ビート!!



ハードル、ストリーマー、虹



ポストカード



大切な人に手紙を書けるカフェ



ひかりのさきになに思ふ



アンサンブル "Luna crescente" Park concert 音楽日和

(どうせだったら)海へ向かってホップ、ステップ、ビート!!
HOP, STEP, BEAT TO THE SEA!!

デンデラ楽団
DENDERA GAKUDAN

象の鼻パーク
Zou-no-hana Park

コロナ禍を通して、町の新しい風景の一部となった「こちらでお待ちください」の印である足型。ソーシャルディスタンスのための足型を、逆にコミュニケーションのための手段に変えることに挑戦した参加型プログラム。参加者が足型でステップを踏むとデンデラ楽団がドラムビートで応答、触れることも話すことも必要のないビートによる会話で、音によるコミュニケーションを生み出した。

ハードル、ストリーマー、虹
Hurdles, Streamers and Rainbows

さくらアリス
Sakura Alice

象の鼻パーク
Zou-no-hana Park

出身地のオーストラリアでハードル選手だった時の記憶と、日本での経験に基づいて制作された作品。ゲートのような高さのあるハードルに、出航時に投げる彩り鮮やかなストリーマーをイメージした色とりどりの紙テープを吊り下げたものと、低いハードルが設置された。日本と海外をつなぐ横浜港に置かれたこのハードルを通して、海の広さとその向こうにある大陸を感じさせる作品となった。

ポストカード
Postcard

&Post

象の鼻パーク
Zou-no-hana Park

ポストカードは、日本中の絵はがきにしたいくなるような風景、瞬間、風物詩を巡り、移動する郵便局。「誰かへの手紙、自分への手紙、宛先のない手紙」の3種類の投函口がある特別なポストのほか、すぐに投函できるツールや機能、サービスが備わっている。来場者は、その場で手紙をしたためポストカードに投函し、想いを速くの誰かに届けることができた。

大切な人に手紙を書けるカフェ
a cafe which you can write a letter to convey your feelings to loved one

コトノハ
Kotonoha

象の鼻パーク
Zou-no-hana Park

「手紙で伝えるありがとうの言葉」の大切さを伝えることをテーマに、コトノハが大切な人に言葉を送るための便箋、封筒を配布した。普段はありがとうを言えない家族や、いつも話を聞いてくれる友達、すれ違ってしまっても本当は大好きな恋人、なかなか言えない感謝の気持ちを素直に書いてほしい。そんな手紙を書く時にホッと一息つけるよう、自ら焙煎したコーヒーバッグを先着順でプレゼントした。

ひかりのさきになに思ふ
What do you think beyond the light

Sensescape Design Lab.

象の鼻パーク
Zou-no-hana Park

懐中電灯形の専用デバイスで光のスタンプを押すと、蓄光ネットが張られたドームに仄かな光の模様が現れる夜の体験型プログラム。独自の幾何学を用いたデザイン理論で作上げた、アメリカの発明家で思想家のバックミンスター・フラーによって考案された「ジオデシック・ドーム」を元につくられたドームの中で、光のスタンプを通して地球について思いをさせることをテーマに制作された。

アンサンブル "Luna crescente"
Parc concert 音楽日和
ensemble "Luna crescente"
park concert

Luna crescente
ルーナクレシェンテ

象の鼻パーク
Zou-no-hana Park

バロック時代以前の珍しい古楽器(ヴィオラ・ダ・ガンバ、バロックギター、リュートなど)と現代楽器(鍵盤ハーモニカ、打楽器)の音と歌で、新旧の音楽を届ける4人組のアンサンブル。Luna crescente(ルーナクレシェンテ)はイタリア語で「上弦の月」の意。通常だと室内楽として演奏されるところを、青空の下、海風が心地良い自然の中で演奏を行った。



Linecraft | 自分だけの空間をつくるためのワークショップ



DAN DAN DOME といのちのまんだら



木工作品 (木製漆塗り仕上げ作品)



まちなかナッジ



マントラヒーリングヨガ

Linecraft | 自分だけの空間をつくるためのワークショップ
Linecraft | Workshop for Creating Your Own Spaces

東京大学寛康明研究室
Yasuaki Kakehi Lab.,
The University of Tokyo

象の鼻パーク
Zou-no-hana Park

自分に合った居場所をその場で即興的につくるためのワークショップ。参加者は、まず象の鼻パーク内を散策し、自分に合う過ごし方や心地よい居場所を探る。その後アイデアをもとに、コンベックステープ(巻尺)とそれを折り曲げ固定するためにデザインされたLinecraft)ライクラフト)ツールを用いて、オリジナルの仕切りやフレーム、オブジェなどを創作した。

DAN DAN DOME といのちのまんだら
DAN DAN DOME & Inochi no mandala

馬場敬一 + DAN DAN DOME
Keiichi Baba + DAN DAN DOME

象の鼻テラス屋上
Zou-no-hana Terrace Roof

南極やヒマラヤなどの極地で人の営みを踏査してきた極地建築家・村上祐資と、容器のイノベーションから地球環境・暮らしの向上を提案し続けてきた東洋製織グループがコラボレーションした、「捨てられる」組立式ダンボール製ドームテント「DAN DAN DOME」に、画家・馬場敬一が「いのちのまんだら」を描いた本作。完成したドームの中では馬場が製作した絵あわせパズルのワークショップを行った。

木工作品 (木製漆塗り仕上げ作品)
Wooden lacquered (Urushi) finish work

河西琢磨 (工作屋KOUSAKUYA)
TAKUMA KASAI (KOUSAKUYA)

象の鼻パーク
Zou-no-hana Park

楽器の小物など、思い付いたものを木製漆塗り仕上げにて制作している作品を展示。日頃は工作屋KOUSAKUYAとして活動し、リクエストに応えるオーダーも受け作品製作・販売を行っている。今回の展示では、蚊取り線香などを収容できる楽器のデザインの木箱や、戦機のデザインの木工細工、また陶器の作品などが並んだ。

まちなかナッジ
Urban Nudge

ポリシーナッジデザイン+まちなかナッジプロジェクト

Policy Nudge Design + Urban Nudge Project

象の鼻パーク
Zou-no-hana Park

ナッジとは、思わず行動したくなる仕掛けのこと。投票式のごみ箱がまちなかに設置されていたり、けんけんばしたくなる四角が道の途中に並んでいるなど、日常生活の風景に面白い仕掛けが存在し、生活が健康に、エコに、そして笑顔が増えるリラックスティマづくりを目指し活動しているプロジェクト。今回は「思わず捨てちゃうごみ箱」が考案された。

マントラヒーリングヨガ
Mantra healing yoga

マーク朋子
Tomoko Mark

オンライン (配信場所: 象の鼻パーク)
Online /
From Zou-no-hana Park

流派を問わず各国に伝承されたヨガと健康に役立つ長寿法を組み合わせた独自のメソッドで行うヨガ講師、マーク朋子によるオンライン朝ヨガ。Nadayogaと呼ばれる音のヨガで、本人が唄う心地良い瞑想的なmantraの音から自分の中の静けさに留まり、自分を癒す時間を象の鼻パークからYouTube配信で全世界へ届けた。

ミュージック&マルシェ ゾウノハナ・コレクション

astreetライブやマルシェなど各種イベントにより賑わいを創出するプログラム。また、ゾウノハナ・コレクションと称して、象の鼻テラスが所蔵する、もしくは過去に展示した作品のうち公共空間にまつわるものを各会場で展示した。象の鼻パークでは、普段象の鼻テラス内で毎週日曜に開催する「ぞうさんマルシェ」の拡大開催と、象の鼻カフェがプロデュースするキッチンカー出店やオープンテラスが、来訪者の居場所を生み出し新しい過ごし方の提案となった。日本大通り駅三塔広場では、アーティスト・アリオトによる空間演出のもと、ピアノ演奏、ポップミュージック、ダンスなど多彩なステージを繰り広げた。隣接する飲食店「バーガー&カフェ サンテオレ」が通常閉じている境界を開放しオープン席をもうけたことで、いつもと異なる風景が生まれた。

MUSIC & MARCHÉ THE ZOU-NO-HANA COLLECTION

The Marché & Music segment was an entertaining program that combined a cozy street market with live music, also exhibiting works from the “Zou-no-hana Collection” along with other works exhibited at the Terrace in the past that likewise complement the unique elements of public outdoor space.

An enlarged outdoor version of the Zou-Sun-Marché, held on Sundays at the Terrace, and Zou-no-hana Café’s own “kitchen car” (food truck) with makeshift outdoor food court, provided new and innovative ways to enjoy Zou-no-hana Park while serving as ideas as how we might enjoy shared spaces in the future.

Piano, pop music, and dance performances were performed and enjoyed at the “Santo Square” along the concourse of nearby underground Nihon-Odori Station, in a space created under the direction of artist Alioth. The adjoining restaurant “Burger & Café Santé Olé” opened up its normally closed-in area and made free seating available for a totally different and relaxing ambience.

アリオト presents ミュージック Alioth presents Music

「音がある」イベントを提案しているアリオトの演出によるミュージックライブ。ピアノ演奏、ポップ・ミュージックライブ、ダンスなどの多彩なステージと、近隣店舗との飲食サービスの連携により、特別な時間をつくった。

[タイムテーブル・出演者]

10月15日(金)

18:00- / 19:00- 渡辺まこみ(ピアノ)、
秋元菜里(フルート)

10月16日(土)

15:00- 石井竜太 + 内田万里

10月22日(金)

18:00- 梅香家聡
19:00- C.C.

10月23日(土)

17:00- 藤本茂寿 + 池上たっくん + 大西彩瑛
18:00- / 19:00- 清水夏生(タップダンス) + 松下福寿 +
吉田篤貴

日本大通り駅三塔広場

Santo Square/Nihon-odori Station



渡辺まこみ、秋元菜里



石井竜太 + 内田万里



C.C.



梅香家聡



藤本茂寿 + 池上たっくん + 大西彩瑛



清水夏生 + 松下福寿 + 吉田篤貴



ぞうさんマルシェ ZOU-SUN-MARCHE

象の鼻テラスで毎週日曜に実施している「ぞうさんマルシェ」を期間中は象の鼻パークに広げて開催。アクセサリーや革細工、陶器など様々なジャンルの店舗が並んだ。商品を並べる仕器は、建築・ファッションなど多分野で活躍する川本尚毅がデザインする新作屋台『ORIICHI』（おりいち）を使用。お披露目の機会も兼ねた。

[出店] Ceramic studio n, maharu & yuyala、Miinkoti kori、PULP art studio, zigzag、MARIEREI、chidori、FUTGS、GREEN WAVE、nocomoco、革工房 yokoji、つまみ細工の鳥待月、スローレーベル、Komorebi Candle、瀬戸内かわい部、にやにやまーけっと
[新作屋台デザイン] 川本尚毅 ((株) N and R Foldings Japan代表)

象の鼻テラス、象の鼻パーク
Zou-no-hana Terrace, Zou-no-hana Park



新作屋台『ORIICHI』（おりいち）

楽がきマルシェ RAKUGAKI marche

日本理化学工業株式会社
Nihon Rikagaku Industry Co., Ltd.

kitpasを使った象の鼻テラスのガラス窓への落書きコーナーや展示を行った。17日には、目の前で絵を描いて読み聞かせする、お絵かきライブも実施した。

関連イベント

絵本作家 まっさん けいちゃんのキットパスおえかきライブ
日時：10月17日(日) 13:00-13:30 / 15:00-15:30
出演：平田昌広(まっさん)、平田景(けいちゃん)

象の鼻テラス / Zou-no-hana Terrace



象の鼻カフェ オープンテラス ZOU-NO-HANA CAFE OPEN TERRACE

期間中の土日は、象の鼻カフェがスペースを拡張し、象の鼻パークでオープンテラスの営業を行った。新型コロナウイルス感染症対策を講じ、テーブルの間隔を大きくあけたオープン席、ロシア・ブラジル料理を提供する「キッチン アムール」のキッチンカーが並び、くつろぎのスペースが生まれた。
また、本事業の招待アーティスト・中山晴奈と象の鼻カフェがコラボレーションし、作品に関連した特別メニューとしてミャンマーの食文化に欠かせない「ラペイエ」と揚げパンのセットメニューの提供も行った。

象の鼻パーク / Zou-no-hana Park



オープンカフェ・サンテオレ OPEN CAFE SANTE OLE

バーガー&カフェ サンテオレ
BURGER CAFE SANTEOLE

みなとみらい線日本大通り駅内のカフェ「バーガー&カフェサンテオレ」が、期間中、三塔広場に面したウィンドウを解放しオープンカフェを特別営業。「アリオト presents ミュージック」の期間には来場者の鑑賞席として位置付けた。中山晴奈が監修する特別メニューの提供も行った。

日本大通り駅三塔広場
Santo Square/Nihon-odori Station



Alice Kunisue exhibition

ZOU-NO-HANA COLLECTION

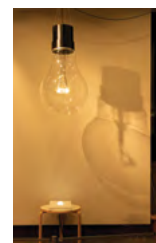
象の鼻テラスが所蔵する、もしくは過去に展示したアート作品を、象の鼻パーク、象の鼻テラス、日本大通り駅三塔広場に展示。絵本やアーティストブックの開架サービス「象の鼻文庫」の特別版として、横浜市立図書館から蔵書を借り受け、象や海にまつわる絵本、横浜の観光情報やSDGsに関する本を追加し、自由に閲覧できるコーナーを設けた。

象の鼻テラス、象の鼻パーク、日本大通り駅三塔広場

Zou-no-hana Terrace, Zou-no-hana Park, Santo Square/Nihon-odori Station



足漕ぎボート「ペリコ」



ON/OFF



ポータブルビーチ



象の鼻文庫 特別版

Alice Kunisue exhibition

アリス・クニスエ / Alice Kunisue

足漕ぎボート「ペリコ」 / Periko

椿昇 / Noboru Tsubaki

ON/OFF

リリアン・ブルジェア / Lilian Bourgeat

ポータブルビーチ / Portable beach

一般社団法人 横濱まちづくり倶楽部 / YOKOHAMA AREA MANAGEMENT

象の鼻文庫 / Zou-no-hana Library

プログラム / PROGRAM

フューチャースケープ・サミット 2021

公園および公共空間の利活用をテーマとしたオンラインフォーラム。仮説として設定した「ニュー(ノーマル+クリエイティブ)ライフ12か条」に基づいて展開したアートプログラム、公募プログラムなどの成果を振り返るとともに、ウィズ&ポストコロナ時代の公共空間活用のあり方について、国際的な視点も交えた議論の場が実現した。オンラインにより物理的な行き来のハードルを超えて気軽に交流できることは有効であり、多角的な視点で公共空間の現状を知る機会となった。

[プログラム・登壇者]

第1部: プロジェクト説明・参加アーティストプレゼンテーション

高橋 匠太
中山 晴奈
金子 未弥
スイッチ総研
藤村 憲之
YOKARO

THE FUTUREScape SUMMIT 2021

The Futurescape Summit consisted of an online forum on how to use parks and other common spaces in more effective ways.

The forum reviewed the event's invited-artist program and open-call art program that had been based on a hypothetical "Twelve Articles of the New [Normal+Creative] Life," while discussing from an international perspective how to utilize common spaces in both with- and post-Covid eras. It was a good opportunity to learn — through multiple perspectives — that overcoming physical barriers to human communication was not as difficult as had been imagined and that there are other effective ways to interact even in the current state of things.

第2部: ウィズ&ポストコロナの公共空間

島田 智里 (ニューヨーク市公園局都市計画&GISスペシャリスト)
町田 誠 (横浜市立大学客員教授、一般財団法人公園財団 常務理事)
信時 正人 (横浜SDGsデザインセンター 理事長)
神部 浩 (横浜市文化観光局長)
岡田 勉 (象の鼻テラスアートディレクター)

進行: 守屋 慎一郎 (象の鼻テラス企画担当ディレクター)

実施期間: 2021年10月2日(土) - 10月24日(日)
集計数: 198件

Dates: October 2 (Sat) - 24 (Sun)
Collected response sets: 198

来場のきっかけ / Why did you come?

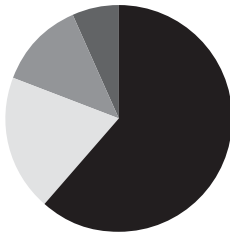


- 44.9% 象の鼻フューチャースケーププロジェクトを観覧するため / to watch FUTURESCAPE PROJECT 2021
- 17.2% 象の鼻テラス・パークに遊びに来るため / to come to Zou-no-hana Terrace/Park
- 30.3% たまたま通りかかって / happened to pass by
- 7.6% その他 / Other



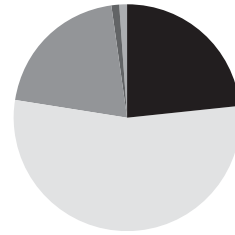
年代 / Age

- 4.0% 20歳未満 / Under 20s
- 16.7% 20代 / 20s
- 20.7% 30代 / 30s
- 25.8% 40代 / 40s
- 24.2% 50代 / 50s
- 6.6% 60代 / 60s
- 2.0% 70歳以上 / 70 and over



居住地 / Place of Residence

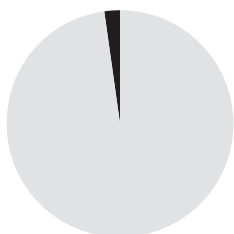
- 61.6% 横浜市内 / in Yokohama
- 19.2% 神奈川県内 / Kanagawa Prefecture [not Yokohama]
- 12.6% 東京都内 / in Tokyo
- 6.5% その他 / Other



同伴者 / Companion

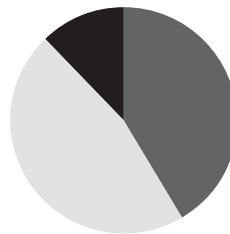
- 23.2% おひとり / None
- 54% ご家族 / Family member
- 20.2% ご友人 / Friend
- 1.0% 恋人 / Partner
- 1.0% その他 / Other

来年度以降もFUTURESCAPE PROJECT継続すべき? / Do you think the Futurescape Project should continue next year?



- 98% はい / Yes
- 2% いいえ / No

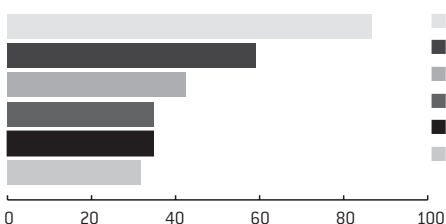
FUTURESCAPE PROJECT 2021全体の感想 / What was your impression of Futurescape Project 2021?



- 41.9% とても楽しめた / Very fun
- 47.0% 楽しめた / Fun
- 12.1% どちらともいえない / Average
- 0.00% 楽しめなかった / Not enjoyable

FUTURESCAPE PROJECT では、SDGsの達成に貢献することを目指し、以下の分野にフォーカスし、さまざまな社会実験を展開します。以下の分野であなたにとって感心の高いものにチェックをお願いします。(複数回答)

The Futurescape Project aspires to contribute to achieving the SDGs by focusing on the following areas and developing various social experiments. Please tell us which areas below you are particularly interested in. [Multiple answers allowed.]



- 68.7% 食 / FOOD
- 59.1% 環境 / ENVIRONMENT
- 42.4% 健康 / HEALTH
- 34.8% 教育 / EDUCATION
- 34.8% 災害 / DISASTER
- 31.8% 花と緑 / FLOWERS AND GREENERY

とても楽しめた・楽しめたと答えた理由 / Why did you think it was "fun" or "very fun"?

- ・無料で楽しめることも多々あり、開放的な場所でのんびり楽しむことができた。 夕々のお出掛けで心も晴れやかになった。
- ・アーティストと直接お話できた。
- ・今まで体験したことのないイベント。屋外でコロナ禍の中安心して楽しい1日を過ごせた。
- ・色々な企画があり、また屋外で密を回避できて良かった。
- ・子どもが参加できるアートプロジェクトがあったので。
- ・小さな船に揺られて、ドキドキしました!
- ・光の実に参加。とても良かった!
- ・空間が心地よいのでゆったり見ることができたと思う。
- ・ミャンマーのミルクティー飲みました。面白かった。
- ・知識が増えた。
- ・色々やってたくさん笑った。
- ・いろいろな取り組みがあることを知って面白かったです。
- ・雰囲気が良い。
- ・大人でも楽しめる。
- ・知らないアーティストとの出会い。
- ・孫たちが喜んだので。
- ・木に光の絵の袋面白かった。
- ・子供がメジャーを使った幾何学の装置で遊べて楽しめました。

写真:
加藤甫[p.7 / p.8上 / p.10 / p.11左 / p.13左 / p.14左 / p.15左 / p.16 /
p.18 / p.19左 / p.20 / p.21左 / p.22右 / p.27 / p.28(右下除く) / 表3]
川島彩水[表2 / p.11右 / p.13右 / p.14右 / p.15右 / p.18左上 /
p.19右 / p.21右 / p.22左 / p.23 / p.26左上]
村上美都[p.8下 / p.9上]
山田真優美[p.9下]

発行: 象の鼻テラス
デザイン: so+ba
翻訳: ダンカン・マーク[pp.1-2 / p.6 / p.17 / p.24 / p.29]
印刷: 株式会社協進印刷
編集: スパイラル / 株式会社ワコールアートセンター

象の鼻テラス
〒231-0002 神奈川県横浜市中区海岸通1丁目
www.zounohana.com
Tel: 045-661-0602
Fax: 045-661-0603
*象の鼻テラスは、横浜市文化観光局の委託により、
スパイラル/株式会社ワコールアートセンターが運営を
行っています。

Photo:
Hajime Kato[p.7 / p.8 upper / p.10 / p.11 left / p.13 left / p.14 left /
p.15 left / p.16 / p.18 / p.19 left / p.20 / p.21 left / p.22 right /
p.27 / p.28(except lower right) / cover3]
Ayami Kawashima[cover2 / p.11 right / p.13 right / p.14right /
p.15right / p.18 upper left / p.19 right / p.21 right / p.22 left /
p.23 / p.26 upper left]
Mito Murakami[p.8 lower / p.9 upper]
Mayumi Yamada[p.9 lower]

Publisher: Zou-no-hana Terrace
Book Design: so+ba
Translation: Duncan Mark[pp.1-2 / p.6 / p.17 / p.24 / p.29]
Printing: Kyoshin Printing Co., Inc
Editing: Spiral / Wacoal Art Center

ZOU-NO-HANA TERRACE
1 Chome, Kaigan-dori, Naka-ku, Yokohama,
Kanagawa Prefecture, 231-0002, Japan
Tel: +81(0)45-661-0602
Fax: +81(0)45-661-0603
*Wacoal Art Center has been commissioned by the Culture and
Tourism Bureau, City of Yokohama to oversee the operation of
Zou-no-hana Terrace.

本書に掲載されている文書・写真などの無断転載を禁じます。
© 2022 All rights reserved by Culture and Tourism Bureau,
City of Yokohama and Wacoal Art Center

本文中の名前・所属・名称などの表記は、
開催当時・発行時の情報に準じて掲載しています。



**ZOU-NO-HANA
FUTURESCAPE
2021
DOCUMENT
BOOK**

